

# 札幌大谷大地域社会学科 初の卒業生

## 就職希望 全員が実現

札幌市東区の札幌大谷大社会学部地域社会学科から今春、初の卒業生が旅立つ。担任制の少人数教育や、基礎学力を定着させる学習カリキュラムを取り入れたユニークな学科で、1期生のうち就職希望者は全員就職できた。「大学でしっかり勉強することが、就職にもつながることが分かった」。大学側は手応えを感じている。

(鹿内朗代)



10人以下の少人数で行われる大谷大地域社会学科の授業風景。教員は就職の相談にも乗る(大谷大提供)

2006年開学の大谷大は、12年に地域社会学科(入学定員70人)を開設。グローバルな人材を育成するというよりも、北海道の働き手を育てる「寺子屋のような大学」を目指す。現在、学生は1、2年生が各50人、3年生44人、今春卒業する4年生は43人が在籍している。このうち卒業後に就職を希望した38人全員が、金融機関や市役所、NPO法人などに就職。残りは留学するなどした。

地域社会学科の特徴は、



### 担任制少人数教育 ▶ 学力向上と就活サポート

1、2年生で国語や英語などの授業を行うことと、4年間を通じた担任制の少人数教育。学生は1年生から研究テーマごとに7、8クラスに分かれ、ゼミナールの教官がそれぞれの担任になる。

観光ゼミのクラスは、渡島管内八雲町熊石地区を訪れて地域活性化に取り組んだ。メディアゼミは、ラジオ番組の製作を通して報道のあり方を考えた。一方、担任が日々の学校生活や就職の相談に乗り、国語で作文の練習、英語で英会話のミニテスト、社会で日本史の学習など基礎的な授業も行う。

東京の保険会社に就職が決まった4年の永井千晴さんの22は「クラスの人数が10人以下なので、どんな授業でも答えを求められる。緊張感を持って、授業を受けることができた」。道内の食品メーカーに内定した大城健太郎さん(22)は「教室に行けば、先生がいつでも相談に乗ってくれた。作文練習やクラスメイトとの授業中の討論は、就活にも役に立ったと感じます」と話した。

高校のように、きめ細かく指導する背景には、勉強

についていけずに退学してしまう学生を減らしたいとの思いがある。

文部科学省の調査(12年度)によると、全国の大学・短大の退学者は全学生の2・65%に当たる約8万人いる。退学の理由は経済的理由(20・4%)が最も多いが、学業不振を挙げた学生も14・5%に上った。独立行政法人労働政策研究・研修機構(東京)の調査では、大学退学者の失業率は大卒者の2倍。一度大学を辞めてしまうと就職しにくくなる現状もある。

地域社会学科の1期生は当初44人いたが、1人が中途退学して43人が卒業する。社会学部長の平岡祥孝教授は「講義だけでなく、教員には学生のサポートが求められている時代」と強調。厚生労働省の調査(13年)によると、新卒正社員採用では、多くの企業が職業経験や経歴よりも、コミュニケーション能力や社会常識を重視するとしている。平岡教授は「企業が求めるのは学び方や、人との関わり方を知っている学生。大学でしっかり勉強させ、大人と話す機会を増やすことが、就職にもつながる」と話した。